

# Infinity Vol.12

～大学と地域の協働力は無限大∞～



2023.3.10発行

発行元

龍谷大学 社会学部  
社会共生実習支援室

〒520-2194

滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5  
龍谷大学瀬田キャンパス内

社会共生実習支援室

TEL:077-544-7230

FAX:077-543-7615

E-mail:co-ex@ad.ryukoku.ac.jp

2022年度社会共生実習活動報告会

ポスターセッションで来場者と交流する受講生

## 買い物支援活動ののぼり旗を制作

「多文化共生のコミュニティ・デザイン～定住外国人にとって住みやすい日本になるには?～」(担当教員:川中大輔准教授)では、受け入れ先のひとつである地域福祉センター「希望の家」(京都市南区東九条東岩本町31)で活動しています。こちらの施設では、地域に根付いた福祉施設としてさまざまな事業を展開されており、活動の一つに「買い物支援」があります。この取り組みは「買援隊(かいえんたい)」と呼ばれ、山王学区社会福祉協議会や山王民生児童委員協議会、京都市東九条地域包括支援センター、京都市南区社会福祉協議会、南区地域支え合い活動創出コーディネート、京都市まちづくりアドバイザーなど、地域福祉の実践者がたくさん関わっておられます。2022年5月に活動が始まり、移動販売車が毎週木曜日の午前中に、食品等を販売に来ています。受講生たちはボランティアとして参加し、高齢者の方の買い物の荷物を持つなどといったお手伝いをしていましたが、認知度がまだ低いという課題解決のために何かできないかと考え、のぼり旗を作成することにしました。のぼり旗の色には、利用者の方の好きな色を取り入れ、完成した旗のお披露目の際には、関係者の方々に大変喜んでいただけました。受講生の吉川真穂さん(現代福祉学科2年生)は、今回の活動を通して、高齢者福祉にも興味がわき、地域の見守りの重要性を感じたと話してくれました。



▲買い物のお手伝いをする学生



▼作成したのぼり旗を手に記念撮影

## 「中央の記憶 レトロ写真展」を開催

「地域エンパワねっと・大津中央」(担当教員:脇田健一教授)の実習フィールドである滋賀県大津市中央学区では、地域と関わりを持たずに家に引きこもりがちで高齢者が増加しているといった問題を抱えていることを受講生たちは知り、高齢者の方々が地域に足を運び交流できる場の提供を目標に活動を始めました。まずは、数台の使い捨てカメラをリレーすることで交流の輪を広げる「中央カメラリレー」を開催し、40～80代の同学区住民約20名に、小さい頃によく遊んでいた場所などを思い思いに撮影していただきました。次に、リレー参加者に、撮影した場所や物への思いを語りあってもらう「お茶会」を開催しました。そして、2月11日(土)、12日(日)には、活動の集大成として、撮影いただいた写真を展示した空間で、昔話を花を咲かせながら地域住民同士が交流できる場を提供する「中央の記憶 レトロ写真展」を開催しました。写真展は、一連の活動に携わってくださった方々の口コミや新聞各社の記事掲載もあり、二日あわせて170名ほどの来場があり、大盛況となりました。「中央カメラリレー」にご参加くださった佐野公信さんは「私はここ(踏切のあたり)で生まれ育ちました。今は大通りになっていますが、昔は狭い道路でこのあたりに実家がありました。」と今は無きご実家の面影を感じつつお話をくださいました。受講生からは「予想以上に多くの方に来ていただき、写真を見ながら懐かしんでいたことが嬉しかった」との喜びの声を聞くことができました。



▲写真を撮影してくださった佐野さん

▼来場者と写真について会話する学生



## 「ランタンイベント」を開催

「地域エンパワねっと・大津中央」(担当教員:脇田健一教授)では、2/24(金)に滋賀県大津市立中央小学校の体育館でランタンを灯すイベントを開催しました。コロナ禍によって地域イベントがほぼ開催できていない状況を知った受講生たちが、地域の子どもの心に残るようなイベントを実施できればと企画しました。「願い事ランタン」は、参加者が空の牛乳パックを持ち寄り、新年度に向けた願い事を書いて予め設置してあるLEDキャンデイルにかぶせてランタンに見立て、その揺らめく明かりが幻想的な空間を演出するというイベントです。当日は子どもたちを含め130名以上の参加者がランタンに願い事を書いてくださいました。願い事や絵でカラフルに仕上がったランタンを円形に並べ、電気を消灯すると、2階からその瞬間を待っていた子どもたちから「わぁ～～～!」という歓声があがりました。受講生からは「準備段階で思い通りに企画が進まず、現地でリハーサルを行う度に課題点も出てきて焦りもあったが子どもたちが喜んでくれたので、やって良かった」と話してくれました。



▲ランタンの作り方を説明する学生



▲2階から見た様子

# 2022年度「社会共生実習」活動報告会



1月13日(金)に社会学部「社会共生実習」全プロジェクトの活動報告会を対面とオンラインで開催しました。当日は各実習の連携先の方や一般の方もご参加下さり、受講生たちの発表に熱心に耳を傾けてくださいました。各プロジェクトからの報告内容を簡単にご紹介いたします。

## 地域エンパワメント・大津中央

本プロジェクトは、滋賀県大津市中央学区をフィールドとして地域課題の発見、その解決に向けての企画提案・実施、成果の共有を目的として活動しています。今年度は「写真展チーム」と「ランタンチーム」の2つのチームに分かれて活動しました。取り組みの詳細は表面をご覧ください。

## コミュニティの情報発信！レク龍プロジェクト

本プロジェクトの連携先「滋賀県レクリエーション協会」にて、運営会議や講習会への参加、SNSを活用した情報発信、広報誌の編集・発行作業、ホームページの管理・運営、イベントの企画・実施などを経験させていただきました。また、同協会の現状の広報活動の課題点を探り、解決に向けての企画・提案をおこなっています。イベントの企画・実施では、8月25日に滋賀県大津市真野浜水泳場にて「浮き輪でGO!」という、ひとりが浮き輪に乗って、もうひとりがその浮き輪を引っ張ってタイムを競うレースを開催しました。たくさんの方に参加いただけた一方で、思うように進行できなかった反省点もあり、事前準備の重要性を身に染みて感じました。また、レクリエーションインストラクター養成講習会では、ユニカール(室内カーリング)や火起こしなど様々なレクリエーションを学びました。

## 大学は社会共生に何ができるのかー文化財から“マネー”を創出するー

本プロジェクトでは、専門家を招いての講話やフィールドワークを通して「保存」と「活用」を両立、且つそこからマネーを創出する新しい方法を考えることを目標としています。今年度は「近江の祭り」「湖北の観音文化」「八幡堀まつり」を調査する3チームにわかれて活動をおこないました。それぞれの祭りにも参画し、また湖北の観音文化に携わる方たちとのトークイベントをとおして、地域住民の祭りへの関わり方や、地域文化への愛着や想いを学ぶことができました。

## 農福連携で地域をつなぐー「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」

連携先である“おもや”(特定非営利活動法人縁活)で、障がいを持つ方と農作業をおこない、地域イベントにも参画しながら農福連携事業の概要や課題の把握に取り組んできました。具体的には、サツマイモの苗植え、黒豆の播種・収穫・選別、「くさつファーマーズマーケット」にて使用済みの米袋をトートバックにリメイクするワークショップを企画・実施しました。これらの活動を経験したことで、農福連携に対して抱いていた堅苦しいイメージが改善され、障がいを持つ方とその支援者の事業への思いや難しさ、未来についての考えなどを知ることが出来ました。また、農福連携事業の課題解決に向けた活動の提案・実践もおこなうことができました。

## お寺の可能性を引き出そう！ー社会におけるお寺の役割を考えるー

本プロジェクトでは、お寺の新しい可能性を地域や関係者の方々と作り出すことを目的としています。前期では、お寺の知識を得るために、西本願寺、一念寺、浄念寺、覚明寺、西方寺、西正寺を訪ね、現状や地域での出来事、ご住職の想いを伺いました。後期には、3つのグループに分かれて、西方寺、一念寺、覚明寺にてイベントの企画・実施やアンケートをおこないました。西方寺では、西方寺祭りに子ども対象のスタンプラリーを企画・実施しました。一念寺では「若者」と「お寺」の接点を作ることを目標に本社会学部のオープンキャンパスの開催を検討しましたが、参加応募者がなく開催中止となりました。また、覚明寺の「みんなの笑顔食堂」や西方寺の「大根焚き供養」の参加者に実施したアンケート調査からは、イベントに参加した後の満足度は高いことがわかりました。全体をとおして、お寺は地域の人たちの拠り所となっており、現代社会の中で問題となっている地域コミュニティの希薄化を解決する糸口となり得るのではないかと感じました。

## いくつになっても、出かけられる！～高齢者を元気にする介護ツアー企画～

本プロジェクトは、高齢者を理解するための講義や高齢者へのインタビューを通じて高齢者が抱える課題や日常生活での困りごとなどの不安を把握し、安心と楽しさを提供できる介護ツアーを企画・実施することを目的としています。今年度は「ゆったり知恩院ツアー～東山の魅力を感じよう～」と題して、移動手段に介護タクシーを利用することでゆったりと観光できるツアーを実施する予定です。数回にわたる下見や打ち合わせを経て、現在は3月の実施に向けてツアー参加者の募集をおこなうなどの準備を進めています。

## 多文化共生のコミュニティ・デザイン～定住外国人にとって住みやすい日本になるには？～

京都市東九条にあるNPO法人東九条地域活性化センターが運営するコミュニティカフェ「ほっこり」、NPO法人京都コリアン生活センター・エルファ、希望の家や京都市地域・多文化交流ネットワークサロンを訪れ、在日外国人が住みやすい日本にしていくにはどうすればいいのかを考えてきました。実際におこなった活動は、「ほっこり」にて外国籍の親をもつ子どもの学習支援や、「エルファ」利用者の方を講師として開催したキムチ作り教室のプロデュースなどがあります。また、「希望の家」では移動販売車が食料品を販売に来る際の地域住民の買い物のお手伝いをおこない、のぼり旗の作成もおこないました。

## 障がいをもつ子どもたちの放課後支援

本プロジェクトは、「どんな行動にも理由がある」というフリーオペラントの考えを通じて、障がいをもつ方との共生社会について考えるプログラムです。連携先である「放課後等デイサービスゆにこ」で、障がいをもつ子どもたちの発達・学習支援を職員の方たちに指導していただきながらおこないました。短い実習期間の中でも、子どもたちが新しく何かをできるようになった場面に立ち会うと、成長を実感でき、障がいをもつ子どもたちが「皆同じ」ではなく、「個性の塊」なのだということを肌で感じる事ができました。この実習をとおして、障がいをもつ人と関わる事が自分自身の考え方を大きく変えるきっかけとなりました。

## 自治体をPRしてみる！

本プロジェクトは、映像を使って自治体をPRすることでPRの本質を知り、撮影や編集などの映像制作スキルを身につけます。今年度は大阪府門真市と滋賀県高島市が受け入れ先となり、PR活動をおこないました。高島市は昨年10月に全国棚田サミットの会場となったことから、合計15本のPR動画を制作し、をYouTubeにアップしました(下記の「社会共生実習Webサイト」からご覧いただけます)。また、11月にはドローン講習会があり、初めてドローンを操作し、空高くまで飛ばしたことは印象に残る体験となりました。ネタ探しや編集作業は時間もかかり予想以上に大変でしたが、取材などとおして門真市の市長をはじめ多くの地域の方たちと話す機会が持てたことなどが心に残っています。

Webサイト・SNSでは最新の情報を随時更新中♪～今後の活動にもご期待ください！～



社会共生実習  
Webサイト



社会共生実習  
Twitter



社会共生実習  
Instagram



社会共生実習  
Facebook



レク龍  
Instagram



坂本アキラ  
Facebook

## 誌面のアイデア募集！

・読んでみたい記事  
・知りたい情報 etc...  
ご意見・ご感想もお待ちしております。社会共生実習支援室までお寄せください。